

第3回大野市生涯学習推進計画策委員会 議事録

日時：令和3年9月28日（火）19時～21時

場所：学びの里「めいりん」2階 洋室大

1 開会

出席委員11名、欠席委員0名

2 委員長あいさつ

本日の会議が3回目になり、ちょうど半分となった。委員には忌憚のない意見をいただけたらと思うのでよろしくお願ひしたい。

3 議事

(1) 報告事項

○第2回委員会の確認事項の報告

- ・第六次総合計画の将来像が決まった経緯について

(2) 協議事項

○生涯学習推進計画の素案について

(説明概要)

- ・計画素案の表紙裏面を目次として、1ページを「第1章 計画の策定にあたって」、2ページを「生涯学習に関する国や県、市の動向」とした。
- ・5ページを「計画の目標」とし、6ページの「計画の位置付け」は、骨子案では市の計画の関連だけを記載していたが、国、県、市の関連性を示した位置付けに変更した。
- ・8ページを「計画の期間」、9ページを「計画の進行管理」とし、計画の進行管理は、市民の生涯学習に対する意向の把握と、事業実施後の内容の改善や新たな施策立案、施策の効率的な推進に努めることを表記した。
- ・10ページで「生涯学習の現状と課題」に入り、11ページからは「生涯学習の取り組み状況」とした。15ページまで写真を入れて、各事業で記録があるものについてはその参加状況を平成29年度から令和2年度まで表記している。
- ・16ページが「生涯学習の現状と課題」であり、第1回と第2回委員会の協議内容、内閣府の調査、これまで市が実施してきた事業で集計したアンケート結果をもとに修正した。
- ・17ページで第3章「計画の基本的な考え方」に入り、基本目標を掲げるにあたってまずは大野市民憲章があり、続いて大野市教育理念、次に第六次大野市総合計画があることを踏まえ、いきいきわくわく暮らしていくことができる生涯学習の実現を目指すため基本目標を定めることを表記した。
- ・20ページが「施策体系」であり、第六次総合計画との関連とこれまでの協議を踏まえ、三つの柱を基本方針とした。1つ目を「ひとづくり」、2つ目を「つながりづくり」、3つ目を「学ぶ場づくり」とし、その下に三つの基本方針に取り組むに当たって必要な情報提供について取り組みを示した。

た。

- ・ 21 ページから第4章「計画実現に向けての取り組み」とし、基本方針ごとに取り組み内容を記載している。

(質疑応答)

委員長：前回の委員会で基本目標を仮決定としたが、改めて見るとどうか。「結の故郷」という表記に関して、「結のまち」よりは「結の故郷」の方が適していると思うが、第六次総合計画の将来像の「結のまち」に捉われなくてもよいのか。

事務局：捉われる必要はない。

委員長：今後、場合によってはまた違う案も出てくるかと思うが、修正することは可能である。表紙のイメージに関しては、最終的にどう決めていけばよいか。

事務局：他にこういうものもあるというイメージがあればご意見をいただきたい。

委員長：最初に第1章から第3章に関して協議願う。

委員：この計画を読むのが主に市職員やその関係者だけであるなら固い表記でいいと思うが、一般市民にもこういった形で生涯学習を広げるので読んでもらいたいのであれば、それなりに考えて作らなければならない。

事務局：今回の計画は、ホームページにも掲載し、広く情報発信したいと考えている。市民の方にぜひ見てもらって生涯学習に取り組んでもらいたいとの気持ちで作っている。

委員：見る人に、計画書にスムーズに入ってもらおうと思うと、これは市が主役なのだから市の動向を最初にして、おまけで国と県はこのように書いてあるというぐらいでいい。市民が最初から最後まで全部見ていけるかと思うと、その可能性はかなり低い。国県の動向は最後に表記してもいいのではないかとも思う。

事務局：そちらの方が読みやすいというのであれば、入れ替える方法もあると思われる。

委員長：整合性が取れるのであれば、市の動向を最初に示してもいいが、整合性が取れないのであれば、また説明ができないのであれば、やはり国、県と降ろしていかなければならない。ただ、他市では、市の動向が先に表記されている計画も見受けられるので、市が先でもありだとは思う。

委員：今回、市民に広く見てもらいたいのであれば、読む手が止まらないように結論を伝えておかないと意味がない。

事務局：以前並びを入れ替えたパターンも作ってみたが、やはり流れがおかしかったため元に戻している。例えば、国、県、市と並んでいるのを、市を最初に持つだけでも見方が違うかということか。

委員：読み進めていくと受け身ではないことが分かっていいと思う。

事務局：一度事務局でも入れ替えを考え、次回に提案させていただくということをお願いしたい。

委員：11ページの生涯学習の取り組み状況に小学生がないのは意図的に抜いてあるのか。放課後子ども教室や自分が入っている子ども育成会のチャレラン大会などもあるし、児童期が抜けているのではないか。

事務局：放課後子ども教室や子ども育成会は、生涯学習・文化財保護課として重要な業務であり当然入れないといけない項目である。小学生に対する取り組みということで、ここに記載す

ることとしたい。

委員：「ニューノーマル」など馴染みの薄い言葉について注釈を入れないと理解しにくい。

事務局：注釈をページ下部に入れるようにする。

委員：今、STEAM教育というものあり、新しいイノベーションを起こそうとか、ジュニアリーダーなどの人材育成とかに繋がっていくような感じで、Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Art（芸術）、Mathematics（数学）、これを組み合わせていろいろ横断的な教育をしようというものである。こういったのを生涯学習に取り入れていこうという思いはないか。

事務局：STEAM教育という言葉は、初めて聞いたものなので調べさせてもらいたい。

委員：兵庫県が普通科高校と技術系高校とを横断して新しい授業をしている。

事務局：学校教育の現場でやっているのか。

委員：そのようである。一つの分野にこだわらないというか、芸術の授業と何かを組み合わせ新しい授業を作ったり、既存の授業の形や体系にとらわれずに取り組みでいったりしていて、生涯学習にもおもしろい授業が生まれるのではないかと思っている。

事務局：これまでの会議の中で出てきた現状と課題に対応して次の取り組みに合致するようなものであればそういった視点も検討したい。

委員長：一度事務局で調べること。計画に挙げるとしても、STEAM教育という言葉を使うのか、分野を横断していくという言葉にするのか、さまざまあると思うが内容を検討してもらいたい。

委員：大野市の生涯学習の在り方について、ここに力点を置いて、ここを探求して取り組みたいというのが見えない。ふるさと教育推進計画では、子どもを中心にしたという視点があった。環境教育を窓口にして大野市の生涯学習の在り方について強調して取り組んでいくという姿勢で切りこめないか。大野は、子どもたちの関心の中でも豊かな自然というものに対してものすごく誇り高い。環境にスポットを当てた、全体で網羅した形を貫いてみてはどうかという気がする。後ほどつながりということがいろいろな角度から示されているが、つながりの中でも世代間交流にもっと行政側も力を入れていくべきだし、我々もそういう視点を持つべきだと思う。年寄り同士で集まって話をしても、薬や病気、年金、孫などの話題で終わってしまう。子どもたちを巻き込んで、これから一緒にいろいろな取り組みをしていく姿というのは全然違う。自分が現場にいたときには祖父母学級というものを行って、そこで昔ながらの縄をなったり、わらじを作ったり、さまざまな取り組みに関心を持ってほしいと思ったこともあった。そういう世代間交流についてもつながりのところでは色濃く出していくという対応にしてほしいと思う。

委員長：この計画素案は、環境が重要だということは認識されて作られているが、それをより前面に出すという意見である。世代間交流にも問題意識を持った素案になっているので、表現の仕方になると思うが今の意見に対していかがか。

事務局：世代間交流は、当然必要な視点になってくる。郷土の学習においても、地域の歴史を知っている方から直接当時の記憶を聞いて次の世代に伝えていかなければならないし、文化財保護の視点から言っても、伝統芸能や地域の歴史などを伝えていくというのは大切なことなので、その視点は大切にしていきたい。重点をおいて取り組まなければならないところ

も出てくるとは思う。そこに重点を置いたという書き方というのは難しい所があるが、どういう書き方があるかというのは考えてみたい。環境教育についても大野の自然は貴重な財産であり、やはり次の世代につなげていかないといけないことだと思っている。また、ゼロカーボンシティや星空の取り組みなども行っているので、大野市全体では環境にも力をおいて進めている。ただ、先ほどと同じく、これは生涯学習の計画なので、そこに特に力を入れると書いていいのか難しいところもある。

委員長：いろいろな意識の共有は必要であるが、委員においては、第4章の中で具体的な案があれば提示していただきたい。ちなみに9ページの進行管理について、事業が進んでいるかどうかチェックするという事は、例えばこの第4章の取り組みを一つずつチェックすることになるのか。

事務局：一つずつのチェックはできないので、第六次総合計画の成果指標「子どもの生涯学習事業参加回数」において、令和元年度が1.41回のところ令和7年度は1.45回という指標があるので、それを見ながら事業内容の改善を検討していくことになる。また図書館の利用回数もあるし、教育方針では市民の生涯学習事業参加回数というものもあるので、その状況を見ながら事業内容の改善が必要になると思う。

委員長：次に、第4章についてご意見願いたい。

委員：21ページの「1ひとづくり」の④に「女性団体の活動を牽引するリーダーを云々」と書いてあるがこれはいらぬのではないかと。このご時世にまだこんなことを言っているのか、とても時代遅れじゃないのかと感じてしまうがどうか。

委員：この表記は入れた方がいい。いまだに「女の人なんか」という気持ちが根強いところがある。ここに記載しておくことで、そのような人たちにも分かってもらえるところがあると思う。女性の立場として入れてほしい。

委員：この計画が5年後、10年後に改訂されるときには、この文言がなくなるような状況になっているといい。

事務局：22ページ(2)について、②で介護保険制度を特出しするのはちょっと違和感があるので考えたい。また、その下の(4)の③の環境問題が、人口減少社会での地域課題に入ることということも合わせて変更を考えたい。また、その次の④が(4)で記載していることと似た内容になっているので、もう少し踏み込んだ書き方としたい。25ページの(4)の②のところで、企業と団体との連携は大事になるが、公民館で今やっているのは基本的には地域課題の解決と生涯学習という感じで体系付けをしてやっているところがあって、生涯学習を追求していく計画の中に地域課題を入れすぎるのも厳しいかもしれないので、もう一度検討したい。今回、4章ではそれぞれの取り組みをただ羅列しているが、それぞれの取り組みをもう少し統合して、幼児期から少年、青年のような流れで整理をしていくことも検討する。まとめられるところは訂正する。

委員：21ページの⑨の「18歳で成人を迎える」という文言に違和感がある。成人を迎える18歳の方がいいのではないかと。これからは18歳で成人を迎えるのか。

事務局：18歳成人のことを記載しているが、「18歳で」という文言を削除してもいいかと思われる。

委員：26ページの(2)の②が「公民館で活動するクラブやサークル活動」になっているが、

公民館以外でも活動されているところもいろいろあるので、「公民館で」を「公民館など」と修正した方がよい。

委員：23ページの(4)の④に、できれば「実践」を追加してもらいたい。地域の課題解決のひとつとして、学習した後に実践までやってしまうということをコンテンツとして取り入れてほしい。

事務局：学んだことを活かすところまでがこの計画の目標にもつながるので、その点も意識したものととして書き方を修正する。

委員長：例えば、26ページの「3 学ぶ場づくり」の(1)の⑤を見ると、環境づくりを学ぶことができる機会などを提供と書いてあるので、そういう一つの機会として踏み込むことができる。その辺りと整合性を図ってもらえればと思う。

委員：以前、さまざまな青年層のグループができて、それぞれに意欲的な活動というものを見せてもらった時期があったが、現在は若い青年層の活動は継続されているのか。

委員：まだ活動している団体はある。今年もイベントを企画するなど継続的にやっている。

委員：一部地区の若い人が地域おこしで頑張っているとは聞いている。このエネルギー的な年齢層の皆さんを喚起する文言、姿勢があるといいと思う。自分の住んでいる地区の青年層が全くグループ化していないし、個々に活動するという姿勢が見えない。それがすごく寂しい。もうちょっと若い層を育てる、そういった取り組みの部分が盛り込まれるといい。それから先ほど触れた環境教育に関わる取り組みが示されているが、22ページ(4)の「人口減少社会における」と、③の環境保全の取り組みのイメージが繋がらない。それから、指導者の育成についても、さまざまな能力を持った子どもの発掘と、その息の長い指導ということも求められているのではないかと思う。せっかく能力を持って生まれた子どもの在り様をしっかり見届け、その将来を保障していくことが求められる。指導者の育成も大事だが、そういった子どもの能力の発見と継続的支援が必要な気がする。

委員長：青年層の活動を支援することと、環境のこと、あとは子どもの能力にあった発掘と継続的な支援を出したらどうかということである。

事務局：生涯学習ではいろいろな取り組みがあって、1、2、3の基本方針にまたがってくるものもあるので、最初は再掲という形で取り組みを挙げていたが、文章が多くなって読みにくくなると感じたため、再掲していた文言を全て取らせてもらった。ただ、この(4)の③は、人口減少の課題解決のところではなく、(2)の「時代の変化に応じた」のところによいか。

委員長：この二酸化炭素の排出量ゼロというのは大野市が打ち出している方針だと思うが、これは時代の変化に応じた政策なのか、そうではなくて人口減少社会において地域課題解決の取り組みの一つとして打ち出されているのか市の挙げ方によって位置付けも変わってくる。あと青年層の活動についてどうされるか。

事務局：今年度は青年活動補助について1件の申請があったが、2年3年前には3団体4団体の申請があった。今はコロナの影響もあって1件しか申請がない状況である。こういったところに力を入れていくのが地域課題解決、地域を盛り上げるということにつながるので、確かにここに青年層の活動の推進を入れておく必要がある。

委員：スポーツなどで活躍している子が多くいるが、大野から出て行ってしまった子たちへの

支援は一切ないのか。そういった子たちを大野市は応援していこうっていうのが必要ではないか。

事務局：市内在住の子どもについては全国大会や国体に出た場合には支援があるが、市外に転出した子どもの場合の支援は把握していない。

委員：大野市は、IターンやUターンで大野に入ってきた人には温かいが、市外に出てまた帰ってくるかもしれない子には冷たいのではないかと思うところがある。

委員：県外の中学や高校に行く人に月一万円でも補助してあげると、その子たちは必ず友達に地元自慢をする。それで、一緒に大野に行こうよとなれば大野にとってもプラスになる。投資である。そういう目線もある。

委員：各取り組みの文言について、「人材の育成と確保に努めます」、「人材を育成します」、「行います」など、統一感が全体的にとられていない。読んでいて「努めます」と「育成します」とは当然違うのだろうが、「指導者の人材を育成します」「育成と確保に努めます」は、しっかりこないで、できれば統一した方がよい。

事務局：できるところはこう実行していきますという文言に修正する。意図的にしたというわけではないので、統一感を持つようにしたい。

委員：「3 学ぶ場づくり」の(1)の⑥「新型コロナウイルス感染症拡大の状況下においても学習が続けられるよう」というところだが、感染が落ち着いてもこういう研修とか講座があると、夜は家から出られない人、例えば女性や子どもと一緒に受けられる。また、70代の方とか80代の方でもタブレットを操作されている方もいるので、そういう方も家において受けられる学習が継続していける。よって、「新型コロナウイルス感染拡大の状況下においても」という文章はなくてもいい。

事務局：感染症拡大の状況は落ち着きつつあるが、このリモートの学習は求められているものだと考えられる。「従来の集合型の講座や」という始まり方で検討したい。

委員長：これは大学でも言われていて、今は対面授業ができないのでリモートになっているが、コロナが終わってもハイブリット型といって、対面授業もあればリモート授業も併せてやっていくことを求められているところもある。

委員：21ページの③仕事や趣味で身に付けた知識や技術を発信できる指導者の育成というところだが、指導者のプロとアマのどこが違うか、それは生涯学習にかかると本当に難しいところで、プロであるからにはプロである道理を経て、もちろん計算してそれを仕事にしているの、それと趣味を得意として教えるのは全然違う。頼む方もプロに頼むのか、趣味として教えられる人に頼むのか、その線引きをしていかないと継続した生涯学習ができないと思う。

委員長：プロとアマというところで、プロでしっかりしたものをてらってきたにも関わらず、上手く使われていることはないか。都合よくみたいなことになるかもしれないが、そのところは違うのではないかと思った。そこは皆さんの意見を踏まえて、多くの議論をして形成されていくものだと思う。これまでこの委員会で協議した内容は、全て事務局が次回までに反映してきているので、やはり意見を出していただくことが必要である。

委員：世代間交流について意見があったが、24ページのつながりづくりのところに世代間の交流や活動の言葉が書いてあるので、これでいいのではないかと思う。生涯学習の計画にお

いてあまりに細かいことに執着しすぎるとまとまっていけない。先ほどのプロとアマについても、自分はどちらかというアマである。なので、求める方がプロを求めるときはそれでいいし、アマでも通常寄り添ってくれるアマであればそれでいいと感じる。プロがほしい時はプロ、アマがほしい時はアマ、プロに求めるのはここまで、アマに求めるのはここまで、みたいところが求める側にはあると思う。若者の活動で、例えば、お茶1本で夏祭りの生演奏を受けている方を見ているが、あの方たちの年代は42～43歳までに限定されていて、完全にボランティアで手を挙げてくれた若い方々である。20人ほどいるが、あの方たちを見ていると、大野市も捨てたものではないとつくづく思う。本当にバイタリティがあってすごいということをいつもそばに感じていた。生涯学習の計画をまとめようとするときに、全員で根っこをおさえようとするのは無理なのではないかと思う。いろいろな意見が出ているので、それを少しずつ取り上げるだけで充分だと思う。

委員長：意見があれば今のうちに出してほしい。次の会議に示して早めに協議できるのでお願いしたい。

委員：1ページ目を見直していただきたい。パブリックコメントに諮って市民が見る1ページ目のところ、「生涯学習しましょう」という全ての思いを入れて、数行でもいいかもしれない。生涯学習は、学び続けた人とそうでない人では生涯賃金が全く違うとのことである。生涯学習はいいことがあるということをお話したいと思う。

委員：「1 生涯学習とは」と「3 計画の目的」を統合してはどうか。生涯学習が今なぜ必要なのか、100年間生涯学習するという方向に持っていけたらいい。

委員：生涯学習がカルチャースクールやお稽古、塾と何が違うのかというと、長い目で見ると、生涯学習を市で取り組むのであれば伴走していくようなものと感じている。今の乳幼児の体と心の発育は20年前と比べて半年遅れていると言われている。便利になりすぎた世の中だから、昔遊びをさせる、家の手伝いをさせる、祖父母との触れ合いも増やし、子どもに侵襲性を与えないとか自己肯定感を皆が持てるようにするとかを考えて生涯学習を進めていきたい。まとめられないからこそ、その伴走するという志が必要だと思っている。今までも予算がないので無料でやってほしいという依頼をたくさん受けてきたが、しっかりわきまえてプロ、アマで分けて発注される方もいる。生涯学習として教えるのであれば、伴走するという思い、長い目で市に自分の持っているものを役立てるという思いがないと指導者になれないし、受ける人もおもしろくないと思う。

(2) その他

事務局：計画素案は、少しずつ見やすいように修正していき、市のキャラクターや写真も入れていくが、計画の見せ方という点で委員の中にこういう方法があるというのであれば、今後提案いただきたい。最終的に概要版も作成するので同じく提案いただければと思う。

教育長：今の子育てのパッケージではQRコードを付けて動画につなげることを進めている。今年は夏休みの子どもたち向けにいろいろなイベントを紹介するカレンダーを作ったが、そこでもQRコードから各種情報に入っていけるようにした。本計画の概要版も同じように作っていくようになる。

事務局：次回第4回委員会の開催は、10月末から11月初めの予定で調整する。10月に関係課

に対してこの素案の意見聴取を行い、その内容についても第4回でお示しする。

4 閉会

副委員長：さまざまなお意見をいただき感謝する。これまでを振り返ってみると、祭りばやしがほとんどなかったと思う。地区の区長会の中でも祭りは神事だけというところが多かった。行事や会議が軒並み中止となり、非常に静かな寂しい半年だったが、この生涯学習推進計画の策定委員会は3回目を終え、こうして順調に進められていることは、委員の皆さんのご協力があったのものであり、とても感謝している。残すところ委員会は2回となり佳境に入っているので、コロナ禍においてもこれだけの計画ができたということを胸張って市民に見ていただけるよう皆さんの知恵を結集して作っていききたい。